



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充滿 ・ 献身 ・ 奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

アシュラムの指導者を想う

連盟理事 日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会
信徒 石井 寛



神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。(ヘブル 13:7)

スタンレー・ジョーンズ師の日本宣教から発足したアシュラム運動。戦後の荒廃した日本の中で牧師も信徒もここに一筋の光を見出し、伝道が再開されました。

1955 年、伊豆天城山荘にて第一回日本アシュラムを開催し、日本クリスチャン・アシュラム連盟としてスタートしたのでした。その後、スタンレー師が提唱した訪問伝道(現在の「こころの友伝道」)も始まり、各地で盛んに集会が開かれました。

1970 年代に私たち青年は所属教会牧師に連れられ、2泊3日の関東アシュラムに参加しました。たくさんの参加者が寝食を共にし、御言葉に聴き、そして祈りと主に在る交わりに信仰を深めることができました。20 歳代だった私はお風呂で初代連盟理事長、高瀬恒徳師の背中を流し、また、「労作の時」にはパロ王に任じられ、掃除や草取りなどなどをみなに命じたことが思い出されます。

私の所属教会、池の上キリスト教会創立者、山根可弐(よしいち)師は、信徒として韓国孤児救済のため自宅を売り払いその働きに立ち上がり、の

ちに警視庁役人の職から献身し、教会を立ち上げ、さらに大きくなった高田馬場の教会を主に委ね、世田谷の小さな家屋を池の上教会として設立しました。どこの教団にも所属せず、単立の教会として歩むためにも多くの働きに参加協力し、そこから学ばれたのです。その中にスタンレー師の提唱するアシュラムがありました。

先生の自叙伝には「1973 年スタンレー師と天城山荘においてお目にかかり、国際的活動の指導にあずかり私の魂は新起せずにはおられなくなった」と記されています。牧会を進めるために、必要なことを主に願うとともに、与えられた恵みを忠実に行っていくために、アシュラムの働きへの参加は先生にとって最も有意義なことでした。池の上教会の入り口の部屋の壁には大きく「イエスは主である」と書かれ、五大原則「キリストへの明け渡しと服従・御言葉への静聴と立証・聖霊の導きと充滿・教会への奉仕と伝道・神の国の体験と献身」が掲げられました。

連盟の理事として先生は日本各地の教会に出向き、時には韓国にも、そして関東地区のアシュラムには私を運転係として同行させてくださり、恵みを語ってくださいました。

毎朝の静聴の時にいただく御言葉と感想をノートに書き記し、「今日与えられたお言葉です。あなたは何をいただきましたか？」が口癖でした。

スタンレー師から直接感化を受けた諸先生、信徒の方々を覚えるとき、今、私たちはアシュラムの恵みを受け継ぐべく、もう一度学び直し「イエスは主である」と立証し、キリストにすべてを明け渡し、日々の静聴と聖霊の導きの満たしで奉仕と伝道、献身へと導かれますように願っています。

アシュラムの恵みは教会を成長させ、それぞれ各自の信仰が日々新たにされます。

霊想 幸いな人々

マタイによる福音書 5 章 1～12 節

単立 函館栄光キリスト教会

牧師 佐々木雄次



主イエスが「山上の説教」をなされた時のことが、次のように記されています。

「イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが御もとに来た。そこで、イエスは口を開き、彼らに教えられた。『心の貧しい人々は、幸いである 天の国はその人たちのものである。』」（聖書協会共同訳 マタイによる福音書 5 章 1～3 節）

この説教は、主イエスの弟子たちに向けて語られたのだと思います。なぜなら、「弟子たちが御もとに来た。そこで、イエスは口を開き、彼らに教えられた」と記されているからです。確かに群衆も近くにいたのでしょうが、主イエスは、弟子たちが御もとに来たことを確認され、口を開かれたと思うのです。

この弟子たちも以前は群衆の一人でした。けれど、主イエスに出会い、招いてくださった主を信頼し、群衆から離れ、御もとに来たのでないでしょうか。

主イエスは、「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」と言われました。「天の国はあなたがたのものだ」という最高の約束を伴った祝福を与えられたのですが、彼らは「心の貧しい人々」でありました。「心の貧しい人々」というのは、「貪欲で了見が狭く、思いやりに欠けている人々」でしょう。けれど、主イエスは「心の貧しい人々こそ、幸いである」と言われたのです。

「心の貧しい」というのを、共同訳聖書では「ただ神により頼む人々」と訳しており、塚本虎二訳でも「神に寄りすがる“貧しい人々たち”」と訳しています。「心の貧しい人々」とは、「とことん貧しく、神さまの憐れみにすがることができる人々」でしょう。ルカによる福音書 16 章 20 節以下には、その代表者と思える「ラザロ」という人が登場します。彼は「出来物だらけの貧しい人」で、ある

金持ちの門前に横たわり、金持ちの「食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼の出来物をなめていた」と言われています。けれど、この人は死んで、アブラハムの懷に連れて行かれました。彼にはなんの取り柄もなかったけれど、ただ神さまの憐れみによって救われたのです。

「ラザロ」という名は「神は救いである」という意味です。主イエスの弟子たちも、ラザロのような人々だと思います。マルチン・ルターが、「私たちは神の乞食にすぎない。それは本当だ」と言いましたが、「神の乞食」とは、「心の貧しい人」と同じ意味でしょう。ルターも「私たちはとことん貧しい者であり、神さまの憐れみがなければ、神の国とは縁のない者たちだ。それは本当だ」と言ったのだと思います。

主イエスの一番弟子になったペトロも、主と最初に出会ったとき、「主よ、私から離れてください。私は罪深い人間です」(ルカ 5:8)と叫びました。自分は神さまを無視して生きてきた罪深い者。愛に欠け、自己中心で、柔和さにも、正しさにも、憐れみや心の清さにも欠け、平和を実現するのでもなく、義のために迫害されるのでもなく、争いを好み、義なるキリストを迫害する者であることに気づかされたのでしょうか。そして、その思いは使徒としての歩みの中で、ますますはっきりしていったのではないのでしょうか。

けれど、主イエスは心貧しい者たちを愛して、弟子とされ、父なる神さまには、「(あなたが)世から選んで私に与えてくださった人々」(ヨハネ 17:6)と言われるのです。「主イエスの弟子たち」とは、「罪深い者であるのに、主イエスに招かれ、主のものとされた幸いな人々」、「主イエスの贖いのゆえに罪赦され、主イエスと共に生きるようにされた人々」、「キリストに従い、ただ主により頼んで生きるようにされた人々」であると思います。

訃報



新宿西教会、青梅教会などを牧し、アシュラム連盟理事を長らく務め、また関東アシュラム委員長としてアシュラムを導いてくださいました有馬歳弘師は 9 月 3 日に、そして 12 日には追うように夫人、一栄師もご召天されました。

ご長男の有馬尊義師が牧会される日本基督教団西荻教会において 16 日、家族葬として告別式が執り行われました。ご遺族の上に主のお慰めがありますようにお祈りいたします。

立証 娘の病を通して

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会 信徒 横坂節子



私が受洗させていただいたのは、1995 年 10 月です。当時、長女の眞紀が、悪性リンパ腫で新橋の慈恵医大に入院し、治療には「骨髄移植」しかないと宣告されました。しかし、幸い妹の由紀から移植することになりました。一

卵性双生児で血液型も同じで、採血しながら、そのまま輸血とは珍しいので、手術室の周りは大勢の見学者がいました。費用も大分かかりましたが、父親の退職金でなんとかりました。

そんな眞紀は病気のせいで夫から離婚を申し出され自宅に戻り、さらに辛い思いの中にさらされました。そんな中、当時住んでいた団地のご近所で 20 年来の親しくしていた姉妹が「教会に行ってお祈りしていただきましょう」と、当時新宿下落合にある池の上キリスト教会に連れて行ってくれたのです。教会では牧師先生ご夫妻、皆様に温かく迎えていただき、長女のためにお心のこもったお祈りをしていただきました。そして 4 か月足らずで私は受洗の恵みに与かりました。私にとっては長い 4 か月でした。入院先への往復の電車で、また夜寝る時の不安に耐えられなかったのです。

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」(1 ペテロ 5 : 7)

この言葉によってどんなに私は救われたことでしょう。不安がよぎる時、この御言葉を思い出し「神様。助けてください」と心から祈ると、その時だけでも心が安らぎ、平安を取り戻していました。

その後、教会は現在の三鷹市に移転しました。その時思っていたのですが、世界中の信徒が、主に求め祈って、その祈りが神に届くのには時間がかかるのではないかと。牧師にそのことを伺いましたら、先生は「大丈夫ですよ、聖霊が必ず働いてくださるから」と言われました。

眞紀は 1996 年のクリスマス礼拝に外泊で帰宅し、車椅子のままで受洗させていただいて、神の子となり、大勢の教会員に祝福されました。母娘

ともに感激の涙を流しました。そして教会員の兄弟がエレベーターのない 4 階の我が家に教会から迎えに来てくださり、眞紀を背負っていただき日曜礼拝に伺ったことが懐かしい思い出です。

教会から家に帰ると「病気が治ったら、ワープロを使って教会の仕事を手伝いたい」と言っていたことも思い出されました。

眞紀はその後時々礼拝に伺っていました。毎晩就寝前に、眞紀と二人で賛美とお祈りをし、心をひとつにでき幸せでした。

受洗して 2 年後の 1998 年 12 月 14 日、眞紀は 39 歳で安らかに神に召されました。8 年間の病気との闘いには敗れましたが、神に導かれて受洗させていただき、神の子となり、永遠の住処が与えられたのです。そして八王子上川霊園に完成したばかりの池の上教会墓苑の第一号埋葬者として納骨させていただきました。

その後、頑固な夫博之も娘の受洗を見て心を開き、主を受け入れ、最期は自宅で 2004 年に静かに召されました。さらに次女由紀も受洗させていただきました。

私は眞紀の病気がきっかけで教会に導かれ救われました。夫や次女の受洗も彼女が道を開いてくれたのです。すべてをお見通しの神のなせる御業に感謝するのみです。眞紀の亡くなった時、棺に鈴を入れ、「私はまだこの世の御用をしたいから、しばらくその鈴を鳴らさないでね」と祈りました。

元気だけが取り柄の私は 20 年前に癌を患い入院治療いたしました。今まで長女や夫を介護する方で、その時は反対に介護される身となりました。8 年間も入退院の繰り返しだった長女や、4 年間も病と闘った夫と違い、たった 1 か月の入院でも長いなあと感じ、早く家に帰りたと思いました。どんなにか長女や夫は辛かったことかと、自分が経験してよく分かりました。

今、90 歳を超しましたが、教会に伺うと心が安らぎ、また楽しくご奉仕ができるのだと思い嬉しい気持ちになります。

最後に私の大好きな御言葉です。

私を、ひとみのように見守り
御翼の陰に私をかくまってください

詩篇 17 : 8

志木教会のアシュラム

日本基督教団 志木教会
牧師 横山基生



志木教会の第 1 回アシュラムは、2019 年 10 月 26 日(土)午後 2 時から 27 日(日)午後 2 時にかけて、西海満希子先生を助言者としてお迎えし行われました。

その当時、志木教会員でアシュラムを経験していた信徒はごく少数でしたが、以前から一教会でのアシュラム開催は父(義孝)の下で馴染んでいたもので、志木教会での開催を祈り求めています。私自身が助言者として行うこともできましたが、西海満希子先生にお願いすることができ、志木教会でのアシュラムに最適なスタートとなりました。

コロナ禍でも期間を短くしたりして継続し、第 7 回目を来年 2 月に予定しています。今までに、西海満希子先生の他に、島隆三先生、中西絵津子先生、山口紀子先生に来ていただきました。

第 1 回目のアシュラムでは、西海満希子先生にアシュラムの目的、流れ、心得等を丁寧に説明していただき、志木教会員はアシュラムの恵みが何であるかを経験することができました。信徒の感想として出てきたことは、御言葉のある箇所と一緒に時間をかけて読み、そこで教えられたことを分かち合うことの喜び、また小グループで祈りの課題を出し一年間祈り合うことの恵みでした。今では多くの方がアシュラム開催を喜び味わい、恒例教会活動の一つとなりました。

私が最初にアシュラムに参加したのは、高校生時代、母教会である西川口教会でのアシュラムでした。开心の時に自らのニーズを皆の前で声を出して語るのにドキドキしたことを思い出します。そこで言えなくても、小グループで語ることができたことは自らの信仰の成長に繋がりました。父

が助言者としてアシュラムを導くと、开心の時や充滿の時に、発言の促しの言葉がしばしばあり緊張しました。その点、西海満希子先生の導きがとてもソフトであったので、志木教会での第 1 回のアシュラムの際、様々な違いを覚えました。助言者によってアシュラムの雰囲気が大きく変わることを経験しました。何がベストな流れということではなく、それぞれの先生の賜物と個性の中に、一回一回のアシュラムが様々な恵みの色彩を放ちつつ作り上げられていくことを経験しています。

東京新生教会時代のアシュラムでは、アシュラムの恵みを経験している他教会員を招いていました。一教会のアシュラムの場合、このような設定はとても有益であると感じています。アシュラムを通して他教会との交わりを促進したいと願っています。

事務局の働きと皆さまへのお願い

連盟事務局 日本基督教団 天門教会
牧師 貴村かたる

いつもアシュラム誌をご拝読くださり、祈りとお支えをいただいておりますことを心より感謝申し上げます。前号 220 号に同封いたしました振込依頼書に応じ、多くの皆さまから尊いご献金を賜りました。主にあるご厚情に、心から御礼申し上げます。

事務局では、全国の教会・ご家庭へ機関誌をお届けする発送業務を担っております。度重なる郵送料の値上げに対して知恵を働かせ、できる限りコストを抑える工夫を重ねておりますが、事務局の働きに対する謝礼も含めた会計負担はなお重く、困難な状況が続いております。どうか引き続き、祈りとご支援をお願い申し上げます。願わくは、多くの諸教会がアシュラムに出会い、この誌面を通して靈性を養い、教会を建て上げる恵みに与れますように。イエス・キリストの福音が広く伝えられますようにと祈りつつ、皆さまのお励ましに心から感謝申し上げます。

アシュラム予告
● 第 17 回 関東地区教会ミニ・アシュラム 10 月 13 日(月祝)
● 助言者・横山基生
● 第 57 回 城北アシュラム 2026 年 2 月 11 日(水祝)
● 会場・新宿西教会予定
● 福音の時・深谷春男
● 第 7 回 志木教会アシュラム 2026 年 2 月 28 日(土) 3 月 1 日(土) 3 日(日)
● 助言者・横山基生
● 牧之原ビジョン教会アシュラム 2026 年 3 月 20 日(金祝)
● 助言者・貴村かたる
● 第 57 回 九州アシュラム 2026 年 9 月 20 日(日) 21 日(日) 22 日(月祝)
● 助言者・榎本恵
● その他、予定されているアシュラムを事務局にお知らせください。

日本アシュラムの五大原則
1. キリストへの明け渡しと服従
2. 御言葉への静聴と立証
3. 聖霊の導きと充滿
4. 教会への奉仕と伝道
5. 神の国の体験と献身

編集後記

9 月 14～15 日の九州アシュラムが祝福のうちに終わりました。参加者は 9 名と少なかったですが、助言者の深谷と那人先生の「福音の時」を通して恵まれました。各地のアシュラムも活発に活動され大変うれしく感謝しています。

これからの課題は若い世代の参加者が増えることです。日本の教会は高齢化が進んでいます。アシュラムも同様です。各地のアシュラムに若い人が集い、後継者が与えられるように祈り続けましょう。 岡山敦彦